

木村賞第三回授賞報告（2014年度）

遠藤 薫*

横断型基幹科学技術研究団体連合（以下横幹連合）は、平成26年11月29、30日に開催された第5回横幹連合総合シンポジウムでの発表論文に対して、木村賞の選考を行い、1件の論文に第三回木村賞を授賞することとした。

本年度の具体的な選考手順を以下に示す（木村賞運営内規に基づく）。

- (1) 審査委員会の設置（2014年10月29日理事会）
審査委員会の構成：
遠藤薫（審査委員長，学術管掌副会長）
- (2) 会員学会ならびに総合シンポジウム参加者への木村賞設置のお知らせ（2014年10月）
- (3) シンポジウム予稿原稿に基づく事前一次審査（2014年11月3日～11月17日）：審査対象論文70件より16件の一次審査通過論文を選考
- (4) 事前二次審査（2014年11月17日～11月24日）：一次審査通過論文16件より6件の二次審査通過論文を選考
- (5) 二次審査選考論文のシンポジウムにおける発表時審査（2014年11月29、30日）：6件の候補論文の評価順位付け
- (6) 審査委員会で1件の論文を選考し理事会に推薦（2015年1月28日）
- (7) 理事会において平成26年度木村賞受賞者を選考（2015年2月23日）

2014年度の木村賞受賞者は以下の通りである。なお、授賞式は2015年4月24日に開催される横幹連合総会において行う予定である。また、総会において受賞者からは受賞論文について発表して頂く。

2014年度木村賞受賞者，対象論文ならびに選考理由

受賞者：原辰徳（東京大学）

対象論文：原辰徳・太田順・新井民夫「人と人工物との相互作用による価値創成～使用行為を経た人工物の機能構成～」

選考理由：

本論文は「横幹性」の面では、価値がいかにつくられるかを交換価値と使用価値に区分して説明している。横幹連合のスコープにマッチすると同時に、“ことづくり”（設計論）として重要である。第5回横幹連合総合シンポジウムのテーマである「モノ・コト・文化の新結合」にふさわしい研究といえる。



また「有用性」の面では、本論文で提示されたコンセプトを現実空間に実装することにより、サービスCADの新たな可能性が拓かれるものと期待される。

さらに「将来性」の面では、今後、このようなコンセプトが横幹連合の大きな方向性と共振しつつ具体的な場面で成果を上げる、様々な発展が期待できる。

以上の理由により、木村賞審査委員会は、本論文を2014年度の木村賞に選考する。

選考理由にも記述されているとおり、選考された論文は、使用行為を経た機能とサービスの変容を、提供者と顧客による貢献のそれぞれの立場から記述可能とすることにより、これまで曖昧に扱われてきた交換価値と使用価値を明確に区分して取り扱うことを可能とし、使用行為の観点から人工物の設計方法を再構築するための方向性を示している。

これは、横断型基幹科学技術の発展に寄与する優れた研究であり、第三回の木村賞受賞に相応しい論文であると高く評価する。今後の横幹連合コンファレンス/シンポジウムの展開が、また新たな段階に入るための礎が築かれたといえよう。

*木村賞審査委員会委員長（横幹連合副会長）・学習院大学法学部